

# 架け橋

「社会教育士」は、社会教育主事講習等規程の一部改正によって令和2年度から始まった制度です。このロゴは支える学びの先にある多様な人々が連携・協働する様子を表しています。社会教育における学びは、色も形も違う人と人、組織と組織などを、色も形も多様なまま、つながりを作っていきます。



## 上都賀地区現職教員社会教育主事会長あいさつ

### 「理想と明るい展望をみんなで語ろう」

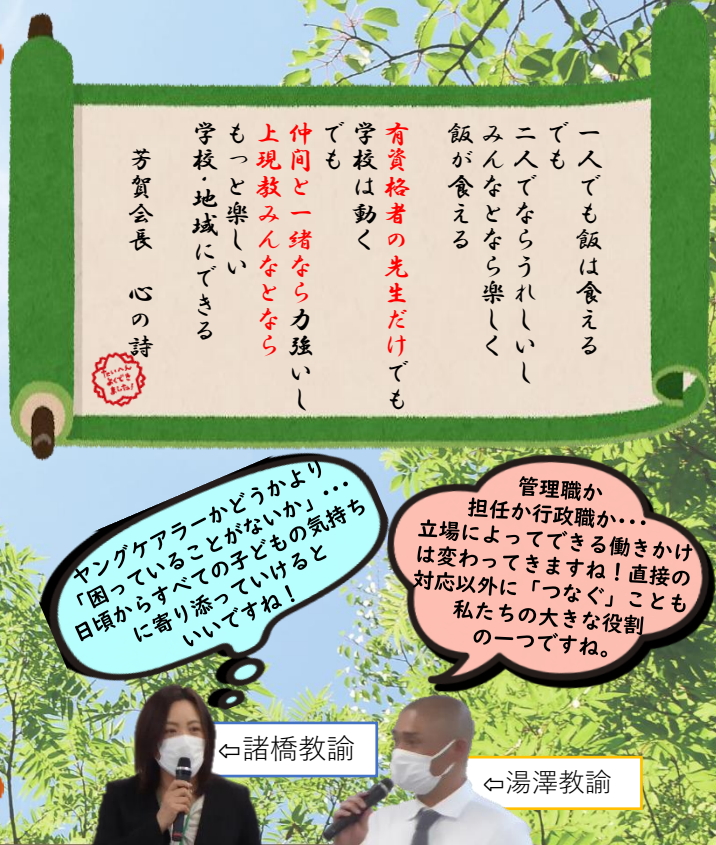
いよいよ来年度から地区内のすべての学校でコミュニティスクール、学校運営協議会がスタートします。どの学校でもその準備を進めていることと思います。本校でも学校運営協議会のメンバーはどうしよう？どんなことをテーマにしよう？などの準備をしています。

でも、今大切なことは、始まった後の学校や地域がどうなりたいかを職員や地域の方と話し合うことだと思っています。理想とする地域や学校の姿をみんなで共有することです。

子ども達が地域の一員としての意識を持ち地域の中で生き生きと活動している姿。それを応援する保護者。子ども達を囲むように集まる地域の方々。多くの方に協力していただける安心感を感じる教職員。そして、集う全ての人に笑顔、笑顔、笑顔。

そういう理想の姿をみんなで共有できるよう校内外で推進するのが、我々社教主事有資格者であり社会教育士です。情報交換しながらみんなで一緒に頑張らしましょう。

上都賀地区現職教員社会教育主事会 芳賀 智一 会長



芳賀会長 心の詩

「ヤングケアラーかどうかより「困っていることがないか」...日頃からすべての子どもに寄り添ってあげるといいですね！」

管理職か担任か行政職か...立場によってできる働きかけは変わってきますね！直接の対応以外に「つなぐ」ことも私たちの大きな役割の一つですね。

## 11/8 上都賀地区ステップアップ研修！

### 1 発表「社会教育主事講習を受講して」

R4社会教育主事講習修了者（11名）から、次年度から地区内小中学校で全校導入となる「コミュニティ・スクールについて学んだこと」を含め、受講しての感想や今後の意気込みを発表していただきました。

### 2 説明「上都賀地区現職教員社会教育主事会について」

芳賀会長による会の説明と、講習修了者と役員との初顔合わせとなる、楽しいワークショップ形式の自己紹介を行いました。

### 3 講話「ヤングケアラーの現状について」

講師：社会福祉士・ケアラープロジェクト夜明け代表 齋藤 久美子氏

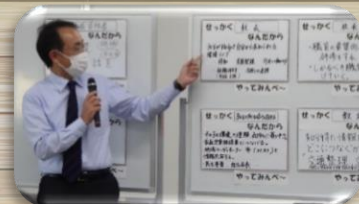
### 4 ワークショップ「社会教育主事有資格者の役割とは」

ファシリテーター：鹿沼市立みどりが丘小学校 諸橋 順子教諭  
日光市立今市第二小学校 湯澤 浩之教諭

齋藤氏からヤングケアラーの現状についてお話しいただいた後、「家族のために頑張っている子どもと子育てが困難な家庭のために、社会教育主事有資格者としてどんな働きかけができるか」について話し合いました。学校を自己完結的に捉えない社会教育的な視点で、様々な課題の解決に迫ることができるのは、有資格者ならではの視点です。



顔合わせ「よろしくお願ひします♪」



せっかくだから「やってみんべ〜」



発行：上都賀教育事務所ふれあい学習課  
協力：上都賀地区現職教員社会教育主事会  
問い合わせ：鹿沼市今宮町1664-1 TEL.0289-62-7167  
kamitsuga-fureai@pref.tochigi.lg.jp

上都賀 ふれあい

検索

## 鹿沼市立中央小学校 教諭 佐藤 学

「つながり」があるからこそ人は幸せになることができる。人とつながることで、学んだことをさらに広げたり深めたりでき、学びから得た知識や技術を社会で表現したり社会に還元したりもできる。また、つながりによって自分の困ったことなどを解決できる可能性も大きくなる。人の幸せを生み出すために築いてきた社会。その社会との「つながり」を大切にしている社会教育。



## 日光市立大沢中学校 教諭 渡邊 裕子

「先生たちには、子どもが人生を作っていく冒険の旅に携わってきた、というプライドをもってほしい」「コミュニティスクールは全て同じ条件で行うものではない」「学校を核とした...→子どもを核とした...この方が動きやすくなる」「個性とつながりの両立が成立する...これからの社会でのつながりの在り方」  
・・・印象に残った言葉の一部です。



## 鹿沼市立さつきが丘小学校 教諭 福田 美知子

社会教育・生涯学習の意義は「幸せであること」、社会教育主事は人と人を繋げていくコーディネーター的な役割を担っていること、学校教育と社会教育、地域づくりは多くの共通点を持っていることを学んだ。子ども達に自分の身の回りに住む大人達の素敵なおとこや、自分の住んでいる町の好きだと思うところを調べたり探させたりして鹿沼への愛着心を少しずつ育てたい。



## 鹿沼市生涯学習課 主任主事 黒崎 直之

社会教育は、地域づくりの機能があり、個人が学ぶ習慣を身につけ組織化を支援していくことで社会全体の課題解決に大きく効果があることを学びました。コロナ禍で人間関係が希薄化する中で、より一層行政に対するニーズが高まる見込みがあります。社会教育の振興を図ることで自ら学び取り組む市民を増やし、行政コストを減らすことで、住民主体の街になると感じました。



## 鹿沼市立北押原小学校 栄養教諭 小出 真美子

私は栄養教諭です。社会教育についての知識を活用し、さらなる食育の充実を図りたいです。勤務校のあるコミュニティセンターや地域の方々と積極的に会話をし、コミュニケーションをとって、より多くの情報を取得したいです。地域のことを食から理解することで、子どもたちに食に関する知識普及、望ましい食習慣について、地域を意識しつつ啓発したいと考えています。



## 鹿沼市生涯学習課 主事 小倉 佑美

社会教育は、地域連携教員、社会教育・生涯学習主管課職員だけではなく、職業・年齢・性別を超えて誰もが、幸せに生きていくために学ぶべき知識であると考えています。今後、他部署に異動しても社会教育はずっと身近な存在であり、役立つものである。また、社会教育を広める機会でもある。限られた能力と体力、時間の中で、少しずつ自分にできることをしていきたい。



## 日光市立今市小学校 教諭 加藤 祐生

教員という立場で学校を中心とした地域に貢献できること、地域住民として自治会や学校のためにできることは何なのかということを考えていきたいと思っています。そして、今まで、自分や家族のためだけに向けていた労力やまなざしを、周囲の人たちにも向けていきたいと思っています。子どもの成長を、たくさんの人で喜べるようにしていきたいです。



## 鹿沼市南摩地区公民館 主事 小野 茉理加

地域の人と雑談するときに、講習で学んだことを（1回につき一つ程度で小出しにしつつ）伝えています。公民館講座も以前より受講者へ目が行き届くようになり、地域の方から「細やかな気配りが嬉しい。講習の成果かな？」と言っていただけでいいです。公民館が「足を運ばば誰かと会って話せる場所」として認識され、地域の方の憩いの場であり続けられるように頑張ります。



## 日光市立大沢小学校 教諭 水上 桂

一人ではできないことが、みんなとならできると思えた経験は、宝である。地域や学校の課題を解決しようとする過程で再現することができたら、様々な人が子供たちを核としてつながり生きがいを感じられる地域になっていくのではないかと。社会教育を学んだ者ならではのものの見方を大事にして、地域の様々なリスクの高まりに向き合うような教育のあり方を模索したい。



## 日光市生涯学習課 主事 木村 圭吾

「市役所は市民の幸せ商品を企画販売するところ、総合計画は幸せ商品カタログ」「人間は母親の体内ではなく社会で育つ」人と人とのつながりがいかに大切であるかということに改めて学んだ。来年度は日光市では地域学校連携協議会が本格導入になるので、人と人とのつながりを大切に、をモットーに大変微力ではあるが何かの形で貢献できるようになりたい。



## 日光市立猪倉小学校 教諭 山本 剛史

社会教育は暮らしの中に埋め込まれている、ほとんどが社会教育と知らずにやっている、自分で自分を高めようとするのが社会教育、個人でやるより話し合った方がうまくいく（幸せな人生に繋がる）、学び方を学んで話し合っって答えを出すことが大切、ということ学んだ。今後は、おやじの会と学校教育と結びつけて、地域と学校の風通しを良くしていきたいと考えている。



## 鹿沼市立石川小学校 教員業務支援員 石川 真子

自分と同じような立場の方（一般参加、PTA役員経験者、地域コーディネーター等）からいろいろお話を聞くことができ、今後の活動のヒントをもらい、大変勉強になった。コロナが落ち着いてこれまで制限されていた行事等が再開された際に、希薄となっていた学校と地域との関わりに対して、さまざまな人と協力して連携していけたらと思う。

